

学区再編方針策定後から、第 1 回審議会開催までの経過

期 日	概 要
令和 3 年 1 2 月	柏崎市学区再編方針を決定
令和 4 年 1 月 1 4 日	小・中学校校長会
1 7 日	市議会文教厚生常任委員協議会 <別記 1 >
1 7 ~ 2 4 日	東中、五中、鯖石小、高柳小の関係者へ事前説明 <別記 2 >
2 月 4 日	広報かしわざき 2 月号 (再編方針、公募委員を募集)
2 5 日	高柳町地区意見交換会
4 月 1 日	教育委員会随時会において、審議会委員、諮問内容を承認
1 4 日	第 1 回学区等審議会

<別記 1 > 市議会文教厚生常任委員協議会 (主な質疑)

Q 学区再編方針が、地域との意見交換後には変わることはあるのか。

A 組み合わせや時期など地域や保護者の御意見により、変更することはある。

Q その地域で子育てがしたい、子どもたちを学ばせたいという住民の思いはどうか。

A 住民の思いを無視するという事ではないが、統廃合を考えざるを得ない状況である。今後、学区等審議会において、妥協点や改善点を見出していきたい。

Q 現在、社会全体が人口減少、少子高齢化の課題を抱えている。このためDXの推進や、小規模校での教育格差を埋めるためのGIGAスクール構想などがある。学校規模も今までと違う考え方を考慮する必要があるのではないか。

A 様々な技術の進歩により、統廃合以外の方法も考えられるのかもしれないが、教育委員会としては、ある程度の学校規模で学校運営をすることが適切であると判断した。

Q スクールバスの配備計画の考えは。また、通学距離が長くなることによる乗り物酔いなど車に適應できない子どもへの対応は。

A 統合が決定した後、通学距離や乗車人数等により整備を進める。乗り物酔いなどの児童生徒には、個別に対応する。

<別記2> 東中、五中、鯖石小、高柳小の関係者へ事前説明

Q 五中は出来て間もなくまだ新しいのに、令和6年度に東中と統合とのことだが、新しい校舎が不要になるということも考えて統合を考えているのか。

A 五中が平成29年度に竣工したばかりということは承知している。生徒数が減り続けている中で、中学校として学習環境はある程度の人数を確保することを優先した。

Q 他の学校より先に第五中学校と東中学校を統合しようと考えた理由は何か。

A 第五中学校の生徒数は30人程度で推移をしている。学年単位で考えると、令和6年度に1学年4人程度の年がある。統合して、まだ数年しか経っていないが、ある程度的人数の中で学校生活を送ってもらいたいことから、最短の令和6年度の統合を示している。

Q 再編方針の検討の中では、規模の大きい学校に統合するという考え方ではなく、学区の境界を変更し、人数を調整することで学校を残そうという考えは出たか。

A 全市的に再度、学区を見直すという案は検討の中で出ていたが、中学校区とコミュニティが連動していることから、既存の学区単位をもとに検討を行った。

Q 少子高齢化や教職員数の減少だけで統合を決めるのはあまりにも単純すぎる。自然や地域の特色を生かした学校が考えられないか。

A プロジェクトチームの中では、地域の文化の維持までは検討していない。

Q 第五次総合計画後期の校舎利用の中では、老朽化した校舎を対象として進めていくと記載があるが、老朽化していない第五中学校が対象となることに疑問がある。

A 第五次総合計画の中では統廃合関係は記載されていないが、子どもの人数の減少を考えた上で、教育委員会として統廃合を早めた方がいいのではないかと考えに至り、方針を示した。

特に中学生の部活動においては、チームを組むために必要な人数が確保できない学校もあり、まとまった人数の中で、やりたいことができる環境を整備することも重要であると考えている。